

農地中間管理事業を活用して農地の再編を図るプラン

ながいし ちほう

(山形県長井市致芳地域(H24.4作成、H26.12見直し))

《概要・データ》

地域の特徴	長井市は、山形県内陸の南部に位置し平地から中山間地までである地帯で、土地利用型農業と果樹、花卉、畜産など多様な農業が混在する地域。 地区内農家数：29集落222戸、地区内農地面積：約400ha
中心経営体	個別経営19名、法人経営2、集落営農組織1
出し手となる農業者	36名《提供予定農地面積約36ha》
農地集積	現状(H25)276 ha(集積率69%)→目標(H30)312ha(集積率78%)

《特徴的な取組》

- 当該地域では、土地利用型農業と畜産を中心にこれまでも農地の集積を図り規模拡大による低コスト農業を目指すとともに、転作大豆やそばについては、法人や集落営農組織が作業受託による集積を進めてきたが、プラン作成にあたり、農地利用図を作成したところ、担い手の農地がバラバラで効率的な利用の妨げになっていることが明らかとなった。
- このため、人・農地プランの話合いを通じて、担い手への農地集積・集約化に対する理解を深め、地域の農業法人・集落営農組織の統合を行うとともに、農地中間管理機構を活用した農地集積の方針を確認した。
- 人・農地プランの話合いの結果を受け、平成26年度には48haが農地中間管理機構を通じて中心経営体等に貸し付けられた。

《プラン作成・見直しの経緯》

- 平成26年1月～ 農地中間管理事業の活用を目途に、担い手への農地集積・集約化に向けた話合いを実施。
- 平成26年3月 人・農地プラン見直し。
- 平成26年12月 人・農地プラン見直し。(農地中間管理機構を活用し農地集積を実施)



〔散居集落の茅葺屋根・白壁土蔵や池が今も数多く残る景観〕



〔担い手にバラバラに集約されてきた農地が、人・農地プランで明らかに。〕

(長井市位置図)

